令和６年度

保護者　様

可児市長　冨田　成輝（公印省略）

子宮頸がん予防ワクチン接種のお知らせ

このワクチン接種は、国が定期予防接種として平成 25 年４月１日から位置づけたものです。平成 25 年６月から積極的な勧奨を差し控えていましたが、令和３年 11 月より積極的勧奨が再開されました。厚生労働省のリーフレット及び同封資料を保護者とご本人が熟読した上で、接種を希望される場合は下記のとおり進めてください。

対象者と接種期間	①可児市に住民票のある小学校６年生から中学３年生の年齢の女子 接種期間：高校１年生相当の年度末まで ②平成９年４月２日～平成 20 年４月１日生まれの女性 接種期間：令和７年３月 31 日まで
料　金	無料
接種実施医療機関	市内実施医療機関　「個別予防接種実施医療機関一覧表」参照 ※かかりつけ医師による接種をお勧めします。
接種時持ち物	①予診票（事前に記入の上、お持ちください） ②母子健康手帳
ワクチン	ワクチンは３種類あります。 同じ種類のワクチンを既定の回数（２回または３回）接種してください。 ①「サーバリックス®」（グラクソ・スミスクライン株式会社） ②「ガーダシル®」（MSD 株式会社） ③「シルガード®9」（MSD 株式会社） ※ワクチンの詳細は別紙を確認し選択しましょう。 医療機関によって、取り扱うワクチンが異なります。
保護者の同伴	被接種者が未成年の場合は、原則、保護者の同伴をお願いします。 ※ご都合により、保護者の同伴ができない場合は、接種前に可児市役所健康増進課までご連絡ください。13 歳以上の年齢であれば、保護者が同伴しない場合の予診票をお渡しできます。
注　意	・安全性及び有効性について確認されていないため、妊娠中又は妊娠の可能性がある場合と授乳中は、接種は控えてください。 ・ワクチンのキャンセルが難しい場合がありますので、慎重にご予約をお願いいたします。
同封書類	・予診票（３枚）※予診票は３枚同封しておりますが、15 歳未満で「シルガード®9」の１回目を接種する場合は２回の接種で完了となるため、１枚は使用しません。 ・子宮頸がん予防ワクチンについて・個別予防接種実施医療機関一覧表 ・概要版　小学校６年生～高校１年相当の女の子と保護者の方への大切なお知らせ 詳細版を確認される方は右の二次元コードで市ホームページをご確認ください。 ・HPV ワクチンを受けたお子さまと保護者の方へ
担　当	可児市役所　健康増進課地域医療係　【電話 0574-62-1111】

予防接種に関する基本的説明事項

◆ 予防接種を受けることができない場合

・明らかに発熱がある場合（接種会場で測定した体温が 37.5℃を越える場合）
・重い急性の病気にかかっていることが明らかな場合
・その日に受ける予防接種の接種液に含まれる成分で、アナフィラキシーをおこしたことのある場合

＊アナフィラキシーとは、通常接種後約 30 分以内に起こる、ひどいアレルギー反応のことです。発汗、顔が急にはれる、全身にひどいじんましんが出るほか、はきけ、嘔吐（おうと）、声が出にくい、息苦しいなどの症状に続きショック状態になるようなはげしい全身反応が起こります。

・その他医師が不適当な状態と判断した場合

◆ 次の方は接種前に医師にご相談ください

① 心臓病、腎臓病、肝臓病、血液の病気や発育障害などで治療を受けている人
② 過去の予防接種で、接種後２日以内に発熱、発疹、じんましんなどアレルギーと思われる異常がみられた人
③ 過去にけいれん（ひきつけ）を起こしたことがある人
けいれん（ひきつけ）の起こった年齢、そのとき熱があったか、熱がなかったか、その後起こっているか、受けるワクチンの種類などで条件が異なります。必ずかかりつけの医師と事前によく相談しましょう。
④ 過去に免疫不全が診断されているお子さん及び近親者に先天性免疫不全の者がいる人
⑤ ワクチンにはその製造過程における培養に使う鶏卵成分、ワクチンの主成分、抗菌薬、安定剤などのゼラチン、防腐剤のチメロサール及び培養成分である培養液等が入っているものがあるので、これらにアレルギーがあるといわれたことのある人
⑥ 妊婦あるいは妊娠している可能性のある人(３回の接種期間中を含む)
⑦ 現在、授乳中の人

※⑥⑦について、子宮頸がん予防ワクチン接種において、妊娠中又は授乳中の接種に関する安全性は確立されていないことから、妊婦又は妊娠している可能性のある者、授乳中の者には接種を行わないことが望ましく、予防接種上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ行います。

◆ その他の注意事項

① 予防接種を受けたあと 30 分間程度は、医療機関で様子を見るか、医師とすぐに連絡をとれるようにしておきましょう。急な副反応はこの間に起こることがあります。接種後 30 分程度は安静にしてください。
② 接種後、１週間は副反応の出現に注意しましょう。
③ 接種部位は清潔に保ちましょう。入浴は差し支えありません。
④ 接種当日は、はげしい運動は避けましょう。
⑤ 接種後、接種部位の異常な反応や体調の変化があった場合は、速やかに医師の診察を受けましょう。

※①について、HPV ワクチン接種後に血管迷走神経反射として失神や立ちくらみが現れることがあります。失神や立ちくらみによる転倒等を予防するため、接種後の移動の際には保護者等が腕を持つなどして付き添うようにし、接種後 30 分程度は体重を預けられるような場所で座るなど接種後の状態を観察し、安静に過ごしてください。

◆ 予防接種による健康被害救済制度について

・定期の予防接種によって引き起こされた副反応により、医療機関での治療が必要になったり、生活に支障が出るような障害を残すなどの健康被害が生じた場合は、予防接種法に基づく補償を受けることができます。
・ただし、その健康被害が予防接種によって引き起こされたものか、別の要因（予防接種をする前あるいは後に紛れ込んだ感染症あるいは別の原因等）によるものなのかの因果関係を、予防接種・感染症医療・法律等、各分野の専門家からなる国の審査会にて審査し、予防接種によるものと認定された場合に、補償を受けることができます。

子宮頸がん予防ワクチンについて

◆ 子宮頸がんとは

子宮の入り口（頸部）にできるがんで、日本では年間約 11,000 人（2019 年）の女性が発症しています。早期に発見すれば比較的治療のしやすいがんですが、進行すると治療が難しく、年間約 2,900 人（2019 年）が亡くなっています。また、20 代～30 代で発症し、手術や放射線等の治療で妊娠ができなくなってしまう人も年間約 1,000 人います。

子宮頸がんは、初期の段階では自覚症状がほとんどないことが多いですが、生理以外の出血や性行為による出血、おりものの増加などがみられることがあります。がんが進行した場合には、足腰の痛みや血の混じった尿がみられることがあります。

子宮頸がんの 95%以上は、ヒトパピローマウイルス（HPV）が原因であることが分かっています。

◆ ヒトパピローマウイルス（HPV）とワクチンとの関係

ヒトパピローマウイルス(HPV)は、一般に性的接触によって感染します。約 50～80%の女性が生涯で一度は感染するウイルスですが、ほとんどの HPV は感染しても無症状であるため、感染者は感染に気付きません。HPV のタイプ（遺伝子型）は 200 種類以上あり、その中でも、子宮頸がんなどの HPV に起因するがんから検出される約 15 種類の型をハイリスク HPV と呼びます。

子宮頸がん予防ワクチン（HPV ワクチン）は、ワクチンの種類によって感染を防げるウイルスの型が異なります。すべての HPV の感染を防ぐものではありません。また、すでに HPV に感染している人に対して、HPV を排除したり、発症をしている子宮頸がんや前がん症状の進行を遅らせたり、治療することはできません。

現在定期接種として使用されるすべての HPV ワクチンで、ハイリスク HPV のうち最も多く検出されている（約 60～70%）、16 型と 18 型の感染を防ぐことができます。シルガード®9 では 16 型、18 型以外に５種類のハイリスク HPV を予防する効果が期待できます。

なお、ガーダシル®およびシルガード®9 は子宮頸がんの原因となる HPV の型だけでなく、尖圭コンジローマの原因となる HPV6 型と 11 型の感染を防ぎます。

◆ HPVワクチンの種類と予防できる HPV の型について

HPV ワクチンは３種類あり、それぞれ予防できる HPV の型や副反応、接種間隔などが異なります。
（HPV ワクチンの接種間隔・間隔や副反応については裏面を確認してください。）
接種方法は、1 回 0.5ml を筋肉内に注射します。

ワクチンの種類	予防できる HPV の型
サーバリックス®（2価）	16 型、18 型（主に子宮頸がんの原因）
ガーダシル®（4価）	16 型、18 型（主に子宮頸がんの原因） 6 型、11 型（主に尖圭コンジローマの原因）
シルガード®9（9価）	16 型、18 型、31 型、33 型、45 型、52 型、58 型（主に子宮頸がんの原因） 6 型、11 型（主に尖圭コンジローマの原因）

子宮頸がん予防ワクチンを受けた後も、
20 歳を過ぎたら定期的に子宮頸がん検診を受診しましょう

ワクチンを接種しても、すべてのヒトパピローマウイルスを防ぐことはできません。子宮頸がんの早期発見のためには 20 歳からの子宮頸がん検診が大切です。定期的な子宮頸がん検診を行いましょう。

裏面もご確認ください

◆ HPVワクチンの接種回数・間隔について

「シルガード®９」は、１回目の接種年齢によって接種スケジュールが異なります。

3種類いずれも、1年以内に接種を終えることが望ましい。

※1　1回目と2回目の接種は、少なくとも5か月以上あけます。5か月未満である場合、3回目の接種が必要になります。
※2・3　2回目と3回目の接種がそれぞれ1回目の2か月後と6か月後にできない場合、2回目は1回目から1か月以上（※2）、3回目は2回目から3か月以上（※3）あけます。
※4・5　2回目と3回目の接種がそれぞれ1回目の1か月後と6か月後にできない場合、2回目は1回目から1か月以上（※4）、3回目は1回目から5か月以上、2回目から2か月半以上（※5）あけます。

厚生労働省作成「小学校６年～高校１年相当の女の子と保護者の方へ大切なお知らせ（詳細版）」より

◆ ヒトパピローマウイルス（HPV）ワクチンの副反応について

HPV ワクチン接種後には、多くの方に接種部位の痛みや腫れ、赤みなどが起こることがあります。まれに、重い症状（アナフィラキシーや神経系の症状など）が起こることもあります。

発生頻度	２価ワクチン（サーバリックス®）	４価ワクチン（ガーダシル®）	９価ワクチン（シルガード®9）
50%以上	疼痛*、発赤*、腫脹*、疲労	疼痛*	疼痛*
10～50%未満	掻痒（かゆみ）、腹痛、筋痛、関節痛、頭痛など	紅斑*、腫脹*	腫脹*、紅斑*、頭痛
1～10%未満	じんましん、めまい、発熱など	頭痛、そう痒感*、発熱	浮動性めまい、悪心、下痢、そう痒感*、発熱、疲労、内出血*など
1%未満	知覚異常*、感覚鈍麻、全身の脱力	下痢、腹痛、四肢痛、筋骨格硬直、硬結*、出血*、不快感*、倦怠感など	嘔吐、腹痛、筋肉痛、関節痛、出血*、血腫*、倦怠感、硬結*など
頻度不明	四肢痛、失神、リンパ節症など	失神、嘔吐、関節痛、筋肉痛、疲労など	感覚鈍麻、失神、四肢痛など

サーバリックス®添付文書（第14版）、ガーダシル®添付文書（第2版）、シルガード®9添付文書（第1版）より改編　　*接種した部位の症状

厚生労働省作成「小学校６年～高校１年相当の女の子と保護者の方へ大切なお知らせ（詳細版）」より

◆ ワクチンの予防効果を得るためには既定の回数（2回または3回）の接種が必要です

・HPV ワクチンの接種は、同じ種類のワクチンで接種を完了することを原則とします。
・15 歳未満で「シルガード®9」の１回目を接種する場合は２回の接種で完了となります。15 歳以上で「シルガード®9」の１回目を接種する場合は３回の接種が必要です。
・１回目（２回目）接種後に気になる症状が現れた場合は、２回目以降の接種をやめることができます。
・３種類の HPV ワクチンについて、途中で種類を変更することは免疫原性、有効性のデータがありません。また、既定の回数を接種した後に、別の種類の HPV ワクチンを接種する場合の安全性、有効性は確認されていません。

◆ HPVワクチン接種後の体調の変化について

ワクチンの接種を受けた後に、広い範囲に広がる痛みや手足の動かしにくさ、不随意運動（動かそうと思っていないのに体の一部が勝手に動いてしまうこと）などを中心とする多様な症状が報告されています。これらの報告に関して、さまざまな調査研究が行われていますが、ワクチン接種との因果関係があるという証明はされていません。また、ワクチン接種歴のない方においても、同様の症状を有する方が一定数存在することが明らかとなっています。

万が一、ワクチン接種後に体調の変化が現れたら、まずは接種をおこなった医療機関やかかりつけ医などの医師にご相談ください。